

令和5年度 職場体験報告

今年度も吉野から学園の生徒さんが職場体験に来てくれました。彼らの感想を紹介します。

【Yさん】三日間の体験の中で感じたことは、「伝えたい」との難しさです。体験中は、初めて知る知識を頭につめ込んでいく作業が多く、それだけでも大変でした。ですが、担当の方は話した後の方には必ず、「やれらを分かりやすく伝える」とが難しい」と話していました。(中略)

一番印象に残っているのは、一田田の県学で、遺跡を探すにはその土地を余すことなく歩き回るのだと知りました。今まで認識では、博物館の人たちは、展示品を管理して、展示する」とが仕事だと思っていました。ですが、実際のところはそうではなく、大きく四つの機能があるのだそうです。それは、「収集・管理・研究・公開」です。非常にアクティブラーニングであり、大変だと感じます。

その中でも、私が特に大変そうだと思うのは、「公開」です。自分が知り得た知識を、相手に細かく説明することは難しいことです。研究し、調べて、得た知識を、不特定多数の人間に伝えること。そこには分かりやすさが必要で、たくさんの工夫があります。人に情報を売る仕事で、重要なのは、分かりやすさであると身をもって感じました。(後略)

【Hさん】ぼくは今回の職場体験学習を通して働くことがどれだけ気を使うことかを知りました。(中略)一田田(中略)は収蔵庫を見学(と資料の)分類作業をしました。収蔵庫の中には、半径五センチぐらのツボにはじっくりしました。(中略)

一田田は朝から土器について学習しました。土器の特徴(中略)などを教えていただきました。その

吉野歴史資料館からのお知らせ

吉野歴史資料館のイベントご案内、実施した事業の報告などをご紹介します



2023年は元正天皇の吉野行幸1300年！ —「元正天皇の吉野行幸を考えてみた」

※本誌の一部でイラスト AC の画像を使っています。



第1回
第1算
第1通

資料館HPより情報発信中！ <http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dentou/rekishishiryokan.html>

HP



YouTube



たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町宮滝348

※現在は十田祝田のみ開館

12月～2月は冬季休館

お問い合わせ

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館

【発行】吉野町産業観光課

奈良県吉野郡吉野町上市80-1

0746-32-3081

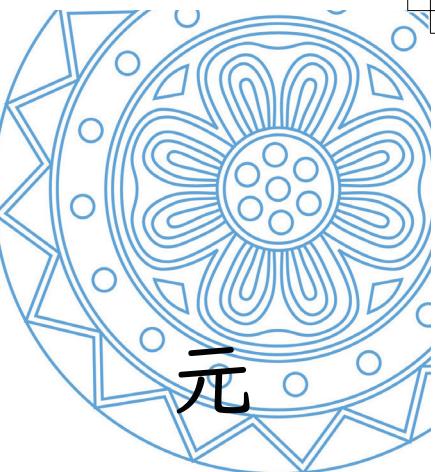
fax:0746-32-8855

mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

たのひみやどり 第11号

令和6年2月1日発行

【編集】吉野歴史資料館



吉野町産業観光課（兼・吉野歴史資料館） 中東 洋行



◇元正天皇の吉野行幸一三〇〇周年

一〇二三年は、元正天皇の吉野行幸から一三〇〇周年にあたります。そして二〇二四年は、元正天皇から譲位された聖武天皇の即位一三〇〇周年、さらには聖武天皇の吉野宮行幸から一三〇〇周年になります。吉野宮跡に比定される宮滝遺跡、その整備をすすめる吉野町にとって、ありがたいメモリアルです。

そうはいつても、元正天皇といわれて「ああ、あの！」となる方はどの位いらっしゃるでしょうか。お恥ずかしながら私自身、少し調べてようやつと「あー、三世一身の法の時代の天皇か。」という認識でしかありませんでした。ですから、「なぜ元正天皇は、聖武天皇に位をゆずる前年に吉野宮を訪れたのか」、なんてジックリと考えたこともなかつたのです。

今回ようやく、元正天皇の解説書や専門書を調べてみたのですが、吉野行幸についての説明は見当たりませんでした。しかし、このまま「分からぬ」で終わる訳にもいきません。私なりに『続日本紀』や『万葉集』をみて考えたことを、つらつらご紹介します。

◇『万葉集』にみる違和感

繰り返しで恐縮ですが、当初、私は元正天皇の吉野行幸について、特に（正直に話しますと、全く）気にしていませんでした。ですが、調べれば調べてみるとほど、元正天皇の吉野行幸は”ただの行幸ではないのでは？”と思うようになります。その理由は2つあります。

①吉野行幸は、先々代の文武天皇以来、実に20年ぶりのできごとでした。なぜ元正天皇は、20年ぶりの吉野行幸を計

※小野寛1979「万葉集從駕歌の一つの問題」『国語国文論集』学習院女子短期大学国語国文学会

画する必要があつたのでしょうか。

②元正天皇の時代、吉野宮を除いて、少なくとも8回の行幸がなされていました。しかし、『万葉集』にはいずれの行幸のときの歌も見当たりません。もつと言えば、先代の元明天皇も各地へ行幸されていますが、その時の歌が『万葉集』に載っていないのです。つまり、元正天皇の吉野行幸は、（もしかしたら）実際に話しますと、全く）気にしていませんでした。

17年ぶりに、歌が詠まれた行幸だったのかもしれません。

吉野町職員という立場もあり、この2点の違和感が、「どうして元正天皇が吉野行幸をしたのか知りたい！」という私の思いに火をつけたのでした。

◇元正天皇の治世は

元正天皇の吉野行幸には何かウラがあるのか。これを考えるには、まず

元正天皇のことを知る必要があります。そこで、元正天皇の治世を『続日本紀』で追つてみることにしました。

読後、私は元正天皇の手腕のすごさを痛感していました。なにせ、自分の存在感を後世にのこさないようにしつつ、なすべきことを徹底的に進めた方だと、私の眼には映つたのですから。

靈龜元（七一五）年に即位した元正天皇の取組は、大きく3つに整理できます。農耕推進。長年のしがらみの整理・統制。先代・元明天皇から託された、

聖武天皇への引継ぎ準備です（他の政策への言及は、ここでは控えます）。

前者の二つは、とても地味に見えるかもしれません。ですが、元正天皇は元明天皇から、「本来ならば天皇の位を皇太子（聖武）に譲るところだが、まだ年が若い。内親王（元正）は人望がたかく寛大で、徳もある。そこで、皇位を内親王に譲る。」と宣言されて天皇の位を託された方だ、という前提にたてば、見え方が変わります。元正天皇は、聖武天皇によりよい形でバトンをわたりにつけたのです。元正天皇への引継ぎ準備は、養老

5（七二一）年、元明天皇の崩御とともに加速します。この年、元明天皇は皇太子（聖武天皇）の教育体制を強化。養老6（七二二）年、母・元明天皇の一周忌をおこない、神龜元（七二四）年に元正天皇は聖武天皇に皇位を譲られたのです。今、何が課題で、何をなすべきで、どの様に皇太子へ譲位するのか。徹底的なまでに、自分の立ち位置を俯瞰し続けた方だと感じました。

◇元正天皇の吉野行幸を考える

では、元正天皇の吉野行幸について考えてみましょう。元正天皇の吉野行幸は、養老7（七二三）年、つまり、聖武天皇に譲位する直前に行われています。そして、元正天皇にとつての吉野は、祖父・天武天皇が“壬申の乱”をおこした場所であり、祖母・持統天皇が何度も訪れた場所、という認識だったでしょう。

持統天皇の吉野行幸の際、多くの歌が詠まれたことは『万葉集』にのついている通りです。例えば、持統天皇の時代から聖武天皇の時代まで宮廷に仕えた大伴旅人は、晩年に太宰府へ異動した後、故郷を思う歌として奈良、飛鳥（藤原）そして、吉野を題材にした歌を詠んでいま

す。それほどまでに、当時の年配の官僚たちにとつて、吉野は象徴的な場所だったことでしょう。一方で、20年近く訪れていないわけですから、若手の官僚などにとつてはウワサで聞いたことがある位の、疎遠な場所になつていていました。

だとしたら、元正天皇が吉野行幸をし、そこで歌を詠ませたことは、自身を祖母・持統天皇になぞらえ、その意思を皆に思い出させようとしたのでしょうか。あるいは、首皇子（聖武天皇）に天武・持統天皇の遺志を伝えようとしたのでしようか。皇位継承の布石であったことは間違いないでしょう。このように疑つてみると、吉野行幸の前年、元正天皇が天武・持統天皇のために造仏していることも、意味深に思えます。

そろそろ紙面がつきそうです。本稿の内容についてお話しした動画が、資料館YouTubeでご覧いただけると思いますので、気になる方はご覧ください。

また、元正・聖武天皇の行幸があつた吉野宮跡比定地と宮滝遺跡の公園整備を、応援いただけますと幸いです。

聖武天皇の時代まで宮廷に仕えた大伴旅人は、晩年に太宰府へ異動した後、故郷を思う歌として奈良、飛鳥（藤原）そして、吉野を題材にした歌を詠んでいま

